

9月議会報告 井之川博幸議員の一般質問その2

沼田市議会9月定例会で、市長に対して行なわれた井之川博幸議員の一般質問の要旨を先週号に引き続き報告します。



井之川博幸市議

森林共生型社会こそ沼田市の発展の道

井之川博幸議員は、沼田市が将来発展して行くためには、森林共生型社会の構築を目指す以外に道は無いと考え、森林の再生及び地域の活性化を図るため、林業従事者の仕事を確保するためにも、国有林の払い下げや民有林の譲渡などを含め、市有林を計画的にふやし、森林整備を推進することが必要と訴え、市長の考えを問いました。

市長は、「市有林は約657ヘクタールを所有しており、現在のところ増やす計画は有りません。なお、間伐等適正な管理を実施し、森林の持つ公益的機能の維持を図ってまいりたい」と答えましたが、森林共生型社会の構築や、森林の再生・地域の活性化などには答えませんでした。

木質バイオマスで産業興しを…市長は消極的

井之川議員は、熱利用としての木質チップやペレットなどの燃料、それらを利用するストーブやボイラー等の生産・流通、木質バイオマス発電所及びその燃料など、産業として確立し、ますます発展することを示し、本市における森林（木質）バイオマスの利用について、どのように推進していくのかを問いました。

市長は、「間伐材等の林地残材の利用拡大を図るためには、森林施業の段階から林地残材を効率的かつ低コストに収集・運搬できる経済性の確保されたシステムの構築が不可欠であると思われることから、今後、本市に見合った対応について研究をしてまいりたい」と、現在産業として全国で確立しつつあるのに、今後の問題として先送りしつつ、真剣に取り組む姿勢は見せませんでした。

バイオマス産業都市応募をめざせ…市長は消極的

井之川議員は、7府省が推進し、今年度第1次として茨城県牛久市など8市町地域が選定されたバイオマス産業都市への第2次以降への応募について、市長に問いました。（右上中段につづく）

林のぶゆき予定候補が演説会で決意表明

大門みきし参院議員が国政を報告

15日告示・20日投票で行なわれるみなかみ町議補選に立候補を予定している日本共産党の林のぶゆき氏が、9月29日みなかみ町観光会館で大門みきし参議院議員を迎えて演説会を開催し、約70人が参加しました。



決意を語る林氏

林のぶゆき氏は、県下で2番目に高い国保税の引き下げや、沼田市の10倍もするゴミ袋の価格の引き下げを行い、町民の生活を応援したいと決意を語りました。

スポーツの秋！各地で運動会！！



高橋場町体育祭



桜ヶ丘保育園



北小学校

（左下から）市長は、「本市におきましても、木質、食品廃棄物、家畜排泄物などのバイオマスを有しており、産業創出と地域循環型の再生エネルギーの強化を図り、地域の雇用創出や活性化につなげていくことが重要な課題であると認識しており」「今後、地域の実情に応じた目指すべき姿、取り組み内容、波及効果などについて、研究してまいりたい」と答え、重要な課題と認識しているにもかかわらず、すぐに取り組もうという姿勢は見せませんでした。

国際的な森林管理協議会の「FSC認証制度」の取得を

井之川議員は、国際的な森林管理協議会が評価・認証する「FSC認証制度」の取得について市長に問いました。

市長は、「このような認証制度も、林業再生手段のひとつとして捉え、今後、本市に見合った対応について研究をしてまいりたい」と答えましたが、市が積極的に取り組む姿勢は見せませんでした。